

## 音楽作品における“新規性”の融合

総合政策学部 4年

石塚直樹

### 1、 問題提起、研究概要

アーティストが音楽を作る理由は様々である。例えば個人的なメッセージを伝えたくて音楽を作る人や、自分がかっこいい、もしくは美しいと思うものを人に伝えるための審美的な理由で音楽を作る人もいるだろう。その理由は様々であるが、そこには他者という存在があるのではないだろうか。少なくとも私自身が音楽を作る上で、他者の存在というのは大きい。そこで一つの問題が発生する。音楽を生み出し、それが他者に伝わった時点で、自分がそもそも考えていたメッセージやかっこよさが伝わるかは、受け入れる人次第なのである。逆に言ってしまうと、そこに自由があると言えるかもしれない。相手に伝わりうる形をとれば、どんなメッセージをどのように入れ込んでもいいし、どんな過激な音を組み込んでもいいのではないだろうか。この自由が音楽を楽しいものとし、幅を持たせているように思う。

そこで、私は、最後の作品としての“ちゃんとした”形は残しつつ、つまりポピュラリティーは残しつつ、そこでいかに実験的な挑戦をしていくかを模索していく。例えば過激な音をいれたり、どこまでがドラムと認識されるかを模索していくことである。

### 2、 研究手法

Max MSP や PureData と呼ばれるソフトを用いたサウンドデザインの手法を用いる。

### 3、 予定

- 4月 音楽における“新しさ”の調査
- 5月 作曲+手直し
- 8月 発表
- 11月 感性

随時コンペティションなどに作品を送る予定。